

次の湯 色清し、鹽氣強し、 中熱湯 主治 脚氣 心痛甚敷によし

新湯 上の湯 貳ヶ所 鼠色、酢く、澀味有、大冷湯 主治 眼疾 諸瘡によし

瀧の湯 薄濁り酢し

にが湯 薄黄色、苦酢し、

下の湯 赤白し、澀み、甘み、鹽氣有、

右いづれも冷湯にして、主治、上の湯に類すべし、

甘湯 湯に甘み有とて甘湯と云、和らかにして温也、 主治、機織の湯に類すと云へり、

右當地温泉の効能、予が聞所大略斯の如し、竊に考ふるに、其地により、硫黄雄黄、辰砂、礬石等の物ありて、其氣になれそ、ぐが故に、其所によりて温泉に緩急ありて、効能またかはるといへ共、其山谷の氣は同じく、其温泉の水源は一なるべし、凡温泉の功は、陽氣を宣通し、血氣を廻らし、肌體をあたため、關節を利し、瘀血を破り、滯りを散じ、寒を除き、濕を去り、積聚、疝氣、むねはら、わきなどの冷痛の類、腰脚のまびれだるく痛む類、手足筋骨のひきつりのびかゝみなり難き類、脚氣、うちみ、くぢき、一切の傷損、下疳、便毒、諸痔、脱肛、淋疾、楊梅、瘡毒、疥癬、雁瘡、紫白、癩風、金瘡、愈んとして愈ざる類、婦人の血積、瘀血、經行不順の症、帶下、腰冷、下部一切の病、これらの諸病、いづれも温泉によるし、又温泉によるしからざるもの病は、氣血虚損、勞倦不足の諸症、もろくの諸失血、後津液乾燥たる病人、脾胃虚勞、咳の類は、浴すべからず、

〔漫遊雜記上〕香川氏曰、温泉不熱者、無益于病者、可謂夏虫之見矣、藝州佐伯郡有泉、曰水内、治腰脚不隨者、有奇効、其泉頗冷、秋冬難浴、

〔筆のすさび下〕安藝州佐伯郡水内和田村の内に、吉と云山の麓に湧泉あり、温泉にはあらず、此泉

冷泉有効